

第3回西洋建築史若手研究者研究発表会

ルネサンス期の都市と建築を考える ～理想都市と築城をめぐる～

ルネサンス期の都市と建築の諸相は、近代のはじまりという時代精神の表れとして、これまでも広く研究されてきた。この時代の都市計画や築城術は当時の建築技術や建築家たちによる合理的で効率的な思考によって文字通り計画されるようになった。都市はますます堅固な城壁で囲われるようになり、住民や領主の安全が守られようとしたとともに、利便性や公衆衛生、美的要素など様々な要素が都市空間に考慮された。人間社会にふさわしい都市空間として何が必要かというそうした理想都市の志向は、根幹的には現代にも通じるものといえるだろう。人間社会の器としての都市はしかし、科学的で合理的な思考のみにより捉えられようとしたわけではなく、そこには新しい知識と技術を直感的に操作しようとする人間の自然な感情も垣間見られる。本研究発表会では、都市空間や建築の役割、城塞のあり方を再編していこうとするルネサンス期の理想都市と築城をめぐる、そうした重層的な解釈を再確認するとともに、この時代の都市や建築を研究する現代的意義についても議論を深めたい。

プログラム

趣旨説明

加嶋章博（小委員会幹事／摂南大学）

1. 理想都市・イタリア

岡北一孝（京都工芸繊維大学）

理想都市としてのローマ —教皇ニコラウス五世のローマ都市計画—

2. 理想都市・スペイン

加嶋章博（前掲）

16世紀スペインの理想都市計画 —植民地の都市計画理念に見られる均質性と多様性—

3. 築城・イタリア

白幡俊輔（関西学院大学）

15-16世紀イタリアの軍事技術と理想都市—シエナとフィレンツェの建築家を中心に—

4. 築城・スペイン

高柳伸一（大同大学）

主要な工兵の活動からみた16世紀後期スペインの要塞化事業 —地中海から大西洋へ—

質疑・討論

総括

中島智章（小委員会主査／工学院大学）

主催：日本建築学会 西洋建築史小委員会

共催：日本都市計画学会 地中海アーバニズム研究会

日時：2013年12月21日（土）13:00～17:00

会場：京都工芸繊維大学・工織会館・1階・多目的室

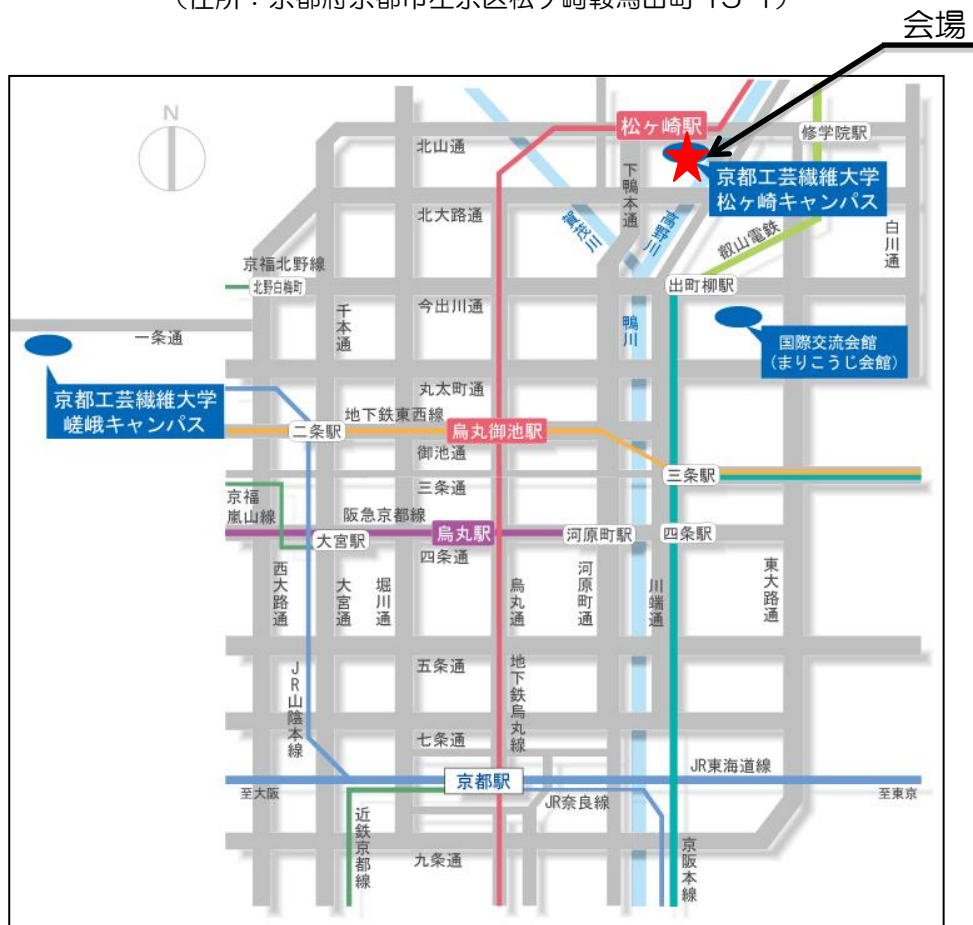
（住所：京都府京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1／市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」から徒歩約6分）

資料代 1000円（当日お支払いください）

申し込み方法：当日先着順、定員60名

問合せ：摂南大学 加嶋章博 Email: kashima@arc.setsunan.ac.jp)

会場：京都工芸繊維大学・松ヶ崎キャンパス 工織会館・1階・多目的室
 (住所：京都府京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町 15-1)



(最寄り駅からの詳細)



京都駅より市営地下鉄烏丸線「国際会館」行きに乗車(約 18 分)「松ヶ崎駅」下車、徒歩約 6 分
 (「松ヶ崎駅」の「出口 1」から右(東)へ北山通沿いに約 220m、三つ目の信号を右(南)へ約 110m
 進み、突き当たりを左(東)へ約 120m)